



# 筑紫女学園大学リポジット

Art-historical Materials Extracted from the  
"Dazaikannaishi" ( 1 )

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2014-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 緒方, 知美, 井形, 進, OGATA, Tomomi, IGATA, Susumu メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/299">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/299</a>

# 太宰管内美術史料（稿） 1

緒 方 知 美 ・ 井 形 進

## Art-historical Materials Extracted from the “*Dzaikannaishi*” (1)

Tomomi OGATA and Susumu IGATA

### 前文

本史料集は、伊藤常足編『太宰管内志』から、美術関係史料を抜粋したものである。

伊藤常足は、江戸時代末期の人で、筑前国鞍手郡古門村の古物神社の神官であった。一方で、亀井南冥より儒学を学び、青柳種信より国学を学び、学問への志たかい人で、やがて一念発起して、九州地方の地誌である『太宰管内志』編纂に着手する。文化元年（1804）、31歳の時のことであった。完成は天保12年（1841）。数々編まれた地誌の中であって、その量と質とは一際目を引くものがあり、また収載される豊富な史料によって、内容は、九州歴史資料集とでも称しうるものを見せている。

この『太宰管内志』に収められる豊富な資料の中には、美術関係史料も少なくない。それら史料は銘文や関連記録の類から、口伝や伝説に至るまで、さまざまである。従来、とくに銘文については、個別の作品研究に際して、しばしば参照され引用されてきたが、美術関係史料全体を見渡すことは行われてこなかった。しかし、『太宰管内志』所収美術関係史料は、従来のように研究の参考資料となるのみならず、重要資料や基準資料検索に資する調査の参考資料となり、また、神仏分離以前の地域の美術の在り方を窺う参考資料となるなど、多様に活用しうる素材としての意義をもっている。そしておそらく、いずれ全体を見渡した時に、はじめて浮かび上がってくる、新たな意義もあるであろう。そこでこのように、『太宰管内志』所収の、美術に関わる記事の抜粋と集積とを試みるものである。

対象とするのは、有形文化財に関するもの、つまり、絵画、彫刻、工芸、書跡・典籍、建造物等に関する記事である。まずは、年号や人名があきらかであるものを拾う。銘文や記録をとまなう基準作に関する記事である。そして、基準作ではなくとも、例えば磨崖仏のように、固定され

てその場とともに在りつづけたものも拾う。美術の範疇でとらえうる史跡である。地域の美術の在り方を考える上では、これは看過できない存在だと考えるからである。さらに、例えば行基作というような、伝承をとまなうものも拾う。史実ではなくとも、伝承の集積の向こうに見えてくるものがないか、と感じるからである。

『太宰管内志』は、あくまでも編纂史料であることから、銘文や記録といったところで、その扱いには注意が必要であり、素材としての有効性と限界とは、常に意識しておかねばならないことである。それに本史料集が、未だ抜粋の基準線にゆらぎがあることもあって、現状では、稿、と付けざるを得ない内容にとどまるのも事実である。盤石な足場となるものではない。しかし、このような作業を通して集積される美術史料は、太宰管内、つまり九州の美術について、きっと新しい目を開かせてくれることだろうと考えている。

## 凡例

- 一、本稿は、『太宰管内志』（天保12年〈1841〉伊藤常足著、昭和44年〈1969〉歴史国書社刊本）より美術関係史料を抜粋したものである。
- 二、太宰管内美術史料（稿）1では、『太宰管内志』筑前1～3（筑前国志一、二、怡土郡）を対象とした。
- 三、抜粋の対象としたのは、下記①～④の条件に合致する絵画・彫刻・書跡・工芸・建造物等である。
  - ①時代、制作に関与した人名の明確な作品
  - ②造形に関する評価を伴う作品
  - ③美術の範疇でとらえうる史跡
  - ④歴史上著名な人物に関わる伝承を伴う作品
- 四、事項は所載順に並べ、項目は通し番号、所載箇所、種別、作品名、時代、人名、網文、本文、引用元、備考とする。
- 五、文字は常用漢字を用い、異体や旧字体などはつとめて常用漢字に改めた。
- 六、項目内容は原資料の用語を尊重して表記した。割注は< >で、返り点は㊦、①②③、㊧㊨で示した。

## 001

- 1 所載箇所 筑前之一国志一（上巻7頁2行）
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 水城・大野城・椽城
- 4 時代 天智天皇3年（西暦664年）
- 5 人名 達率憶礼福留・達率四比福夫
- 6 網文 この年、筑紫に大堤を築き水を貯め（水城）、次の年に達率憶礼福留・達率四比福夫を筑紫国に遣わし、大野城・椽城を築く。
- 7 本文 三年於筑紫築大堤貯水、<此事委くは御笠郡水城ノ件に云べし>、四年秋八月遣達率憶礼福留・達率四比福夫筑紫ノ国築大野及椽二城、<委くは御笠郡大野ノ件に云べし>、九年二月又築長門城一・筑紫城一
- 8 引用元 『天智天皇紀』
- 9 備考

## 002

- 1 所載箇所 筑前之一国志一（上巻9頁15行）
- 2 種別 工芸
- 3 作品名 伎楽具
- 4 時代 朱鳥元年（西暦686年）
- 5 人名
- 6 網文 新羅客を饗応するため、川原寺の伎楽を筑紫に運ぶ。
- 7 本文 夏四月壬午為饗新羅客等運川原寺ノ伎楽於筑紫、
- 8 引用元 『天武天皇紀』
- 9 備考

## 003

- 1 所載箇所 筑前之一国志一（上11頁15行）
- 2 種別 書跡
- 3 作品名 松浦廟宮本縁起
- 4 時代
- 5 人名 観世音寺読師能鑿・執筆筑前介南淵深雄・内堅礮上興波
- 6 網文 観世音寺読師能鑿、執筆筑前介南淵深雄、内堅礮上興波ら、主公藤原広嗣を慕い、松浦廟宮本縁起を傳す。
- 7 本文 松浦廟宮本縁起云、右近少将従四位下藤原広継太宰少式任中慮外難観世音寺ノ読師能鑿執筆筑前ノ介南淵ノ深雄内堅礮上ノ興波等慕主公而傳、

8引用元 『群書類従』25巻

9備考

004

1 所載箇所 筑前之一国志一（上12頁9行）

2 種別 工芸

3 作品名 印

4 時代 天平17年（西暦745年）

5 人名

6 網文 大宰府管内諸司に印12面を給す。

7 本文 六月辛卯復置太宰府、<sup>②</sup>＜八月己丑給太宰府管内諸司印十二面<sup>①</sup>＞、

8引用元 『続日本紀』16巻

9備考

005

1 所載箇所 筑前之一国志一（上巻12頁12行）

2 種別 工芸

3 作品名 甲刀弓箭の様

4 時代 天平宝字5年（西暦761年）

5 人名

6 網文 西海道巡察使式部少輔従五位下紀朝臣牛養等、筑前・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後・日向等の国に仰せて、甲刀弓箭を造備せしめんがため、其の様を太宰府に送らしむ。

7 本文 天平宝字五年七月甲申西海道巡察使式部少輔従五位下紀朝臣牛養等言戎器仗設諸  
国所同今西海ノ諸国不造年料ノ器仗既曰辺要当備不虞於是仰筑前筑後肥前肥後豊  
前豊後日向等国造<sup>①</sup>備甲刀弓箭、各有数<sup>②</sup>每年送其様太宰府<sup>①</sup>

8引用元 『続日本書紀』23巻

9備考

006

1 所載箇所 筑前之一国志一（上巻13頁1行）

2 種別 工芸

3 作品名 兵器

4 時代 天平宝字5年（西暦761年）

5 人名

- 6 網文 筑前・筑後・肥後・豊前・豊後・日向・大隈・薩摩等 8ヶ国、兵士12500人ほかを検定す。兵士はすなわち兵器を役造せしむ。
- 7 本文 (天平宝字五年) 十一月丁酉正四位下吉備朝臣真備<sup>②</sup>為西海道使<sup>①</sup>從五位上丹比真人土作佐伯宿禰美濃麻呂<sup>①</sup>為副判官四人録事四人筑前筑後肥後豊前豊後日向大隅薩摩等八国<sup>②</sup>檢定船一百二十一隻兵士一万二千五百人子弟六十二人水手四千九百二十人<sup>①</sup>皆免三年田租<sup>②</sup>悉赴弓馬兼調習五行之陣其所遣兵士者便役<sup>②</sup>造兵器<sup>①</sup>
- 8 引用元 『続日本書紀』 23卷
- 9 備考

## 007

- 1 所載箇所 筑前之一国志一 (上巻15頁 3行)
- 2 種別 彫刻・書跡
- 3 作品名 等身白檀千手(観音)像 1 軀、大般若経 2 部、法華経1000部
- 4 時代 弘仁 5 年 (西暦814年)
- 5 人名 伝教大師
- 6 網文 伝教大師、前渡海の願を遂げんがため、重ねて筑紫国に向かい、諸功德を修し、等身白檀千手(観音)像 1 軀、大般若経 2 部、法華経1000部を造る。
- 7 本文 弘仁五年伝教大師年四十七<sup>①</sup>為遂前度海願<sup>②</sup>重向筑紫国<sup>①</sup>修諸功德<sup>②</sup>造等身白檀千手像一軀<sup>①</sup>大般若経二部<sup>②</sup>法華経一千部<sup>①</sup>
- 8 引用元 『僧綱補任抄出』
- 9 備考

## 008

- 1 所載箇所 筑前之二国志二 (上巻22頁 6行)
- 2 種別 工芸
- 3 作品名 鏡
- 4 時代
- 5 人名 筑前守藤原経衡
- 6 網文 筑前守藤原経衡、祈雨のために、竈門明神に鏡を奉る。
- 7 本文 筑前守藤原経衡、<〔詞書〕に、筑前守にて国に侍りけるに日いたく तरीければ雨の祈に竈門明神に鏡を奉るとて云々とあり、時代のことはいまだつまびらかならず>
- 8 引用元 『新続古今和歌集』
- 9 備考 竈神社に、本作品として伝世する鏡 1 面あり。

## 009

1 所載箇所 筑前之三国志二（上巻24頁5行）

2 種別 絵画

3 作品名 地図

4 時代 至元18年（西暦1281年）

5 人名

6 網文 元朝、漂着した日本船の水工に、太宰府・平戸島を地図に画かしむ。

7 本文 至元十八年正月命日本行省右函相阿刺罕右丞范文虎及忻都洪茶丘等率十万人征日本二月諸將陞辞、又為風水不便再議定会於一岐島、今年三月有日本ノ船為風水漂至着令其水工画地圖因見近太宰府西ニ有平戸ノ島者周圍皆水可屯軍船

8 引用元 『元史』208巻日本伝

9 備考

## 010

1 所載箇所 筑前之三国志二（上巻27頁13行）

2 種別 工芸

3 作品名 錦直衣

4 時代 元弘元年（西暦1331年）

5 人名

6 網文 小式貞経、西奔した足利尊氏兄弟を太宰府に迎え、錦直衣を製して奉る。

7 本文 小式貞経筑前ノ人也（中略）元弘元年大駕（脱北）西幸船上山貞経与大友貞宗菊池武時通謀奏請討北条氏綸旨帝聽之賜以錦旗（中略）尊氏攻京師大敗乃与弟直義西奔將赴太宰府貞経多備馬仗待其至遣子頼尚及其弟某率銳卒数百往迎並製錦直衣奉尊氏兄弟

8 引用元 『大日本史』212巻

9 備考

## 011

1 所載箇所 筑前之三国志二（上巻34頁7行）

2 種別 建造物

3 作品名 福岡城

4 時代 慶長5年（西暦1600年）

5 人名 黒田長政

6 網文 黒田長政、豊前を改め筑前に任ぜられ、福岡城を築城。

7 本文 慶長五年九月十五日内府家康上京於濃州ノ一戦擒三成諸国復旧長政以有軍忠改豊

前任筑前於是築城号福岡可謂有惟父有惟子  
①② ①④ ④ ② ①④ ② ①② ①

8引用元

『仙巢稿』下卷如水居士ノ碑文

9備考

012

1 所載箇所

筑前之二国志二（上巻36頁12行）

2 種別

工芸

3 作品名

4 時代

5 人名

鍛冶系図

6 綱文

筑前国鍛冶系図、西蓮（後堀川御宇）より国光（光明御宇）まで43人の名を挙げる。

7 本文

筑前国鍛冶系図、西蓮<後堀川御宇貞応良西ノ子或健保トモ云談義所国吉ト号ス同銘二代七十歳存生>実阿<後深草御代康元西蓮ノ子七十歳或二代同名実阿是ト長銘ハ二代トモ云>、左<後伏見御宇正安暦中間実阿カ子或外孫トモ云相模国正宗門人ニテ年長也>安吉<御醍醐御宇元徳暦応左ノ子左衛門三郎ト号ス或ハ入西カ孫トモ云、延文五年六十歳>、国弘<後光厳御宇ノ文和左ノ聳或吉弘ノ子トモ云>、安弘<称光御宇応永国弘ノ子>、行実<光明御宇貞和左ノ門人>弘安<後光厳御宇貞治行真ノ子同名二代或ハ正平七年ノ作有リ>、貞弘<後小松ノ御宇嘉慶弘安ノ子或安吉門人応永中トモ云>、貞国<称光御宇応永貞弘ノ子或永徳国弘ノ子トモ云>、資貞<後円融ノ御宇康暦左ノ門人>定行<御光厳院御宇貞治左ノ門人或文和中トモ云>弘行<光明御宇貞和左ノ門人>、国房<同御宇左ノ門人平戸左衛門佐、或正中ノ作有ト云>、行弘<後光厳御宇文和弘行ノ子或応永同名有リトモ云>、行吉<後小松御宇永徳行弘ノ子或ハ隠名サツクワト切ル>、安行<同御宇同弟或応永定行ノ子トモ云>、貞房<同御宇同弟>、貞秀<光明御宇貞和左ノ弟>、秀貞<後光厳御宇延文貞秀ノ子>、治吉<後小松御宇至徳秀貞ノ子彫物ノ上手>、吉弘<後光厳御宇延文安吉門人筑州住吉弘ト銘ス或正中トス按スルニ不審>貞吉<崇光御宇観応ヨリ応安ノ間或吉貞ノ子トモ云安貞トモ銘ス、安吉ノ子>貞吉<後円融ノ御宇永和康暦貞吉ノ子或康永中鑪五分小肉片山形>貞秀<後光厳御宇文和、安吉ノ門人或貞吉子、貞治中トモ云、平戸ノ住トモ云>、宗吉<光明御宇貞和行弘子或ノ吉弘子ノ或門人トモ云>時行<延文貞治ヨリ至徳貞行ノ子同名三代或貞行ノ父トモ云>貞行<御光厳御宇延文宗吉子或時行子康暦中トモ云>、吉真<後小松御宇永徳系図未考>、行鬼<延元中安吉門人>、サツクワ<弘安門人或行吉門人トモ云何レカ是ナラン>、守綱<後円融御宇永和系図未詳>、教光<後小松御宇嘉慶大石ノ住>良西<後堀川御宇寛喜西蓮父或高綱門人トモ云此作希也、按ニ世々僧ナルベシ>、入西<西蓮弟ニテ左ノ実父トモ云、或永仁中トモ云或良西ノ



子安芸国住法師也トモ云>、歳阿<後醍醐御宇元徳、国弘ノ門人ニテ年ハ師ヨリ長ズ、或康安存生ス>生玉<時代系図未詳<sup>①</sup>三笠郡宰府村内山ト云処ニテ造ルト云>、吉次<後円融御宇永和ヨリ明德ノ間吉貞ノ子或建暦中ト云不審也>、清真<後小松御宇明德或弘安二王清真子当国ニ住ストモ云>、高綱<後鳥羽御宇元暦文治本国備前或良西門人トモ云>、教永<或炆永ノ子大石ノ住按ニ炆ハ教ノ略字歟>、生仏<時代系図未考<sup>②</sup>、或陸奥住人後当国ニ住ス>国光<光明御宇延元国房ノ子相州貞宗ノ風情有リ上手按芸州住人ナルベシ>、

8引用元 『本朝鍛冶考』 8巻

9備考

013

1 所載箇所 筑前之二国志二（上巻37頁9行）

2 種別 工芸

3 作品名

4 時代

5 人名 金剛兵衛系図

6 綱文 金剛兵衛系図、高綱（亀山御宇）より実次（文徳御宇）まで32人の名を挙げる。

7 本文 高綱<亀山御宇文永入西妹賀金剛兵衛盛高ノ祖父>、盛国<後宇多御宇弘安高綱ノ子子蓮ノ孫後伏見御宇正安作有リ或金王トモ号ス>、盛高<後二条御宇嘉元盛国ノ子或良西ノ孫金剛兵衛源云云ト銘ス同名三代>、盛高<後醍醐御宇元亨盛高ノ子或父ハ相州正宗門人ト云>盛綱<後醍醐御宇元亨正中盛高ノ二男一本ニ高綱初代ノ次博多ノ住トアリ別人カ>盛高<光明御宇貞和盛高ノ子後豊後ニ住ス>、吉盛<光明御宇康永盛綱ノ子或盛高子トモ云又永正ニ同名有リトモ云>、茂盛<御光厳御宇貞治吉盛子茂字訓未知>盛康<御光厳御宇貞治吉盛子>、盛方<後小松御宇至徳盛康子>、盛清<光明御宇康永盛綱ノ子>、盛吉<同御宇盛綱ノ子>、盛秀<後光厳御宇貞治盛清ノ子>、盛信<後小松御宇永徳盛秀ノ子>、房盛<後光厳御宇貞治盛清二男>、能房<右同御宇房盛ノ子>、盛重<後小松御宇至徳盛秀二男>盛元<称光御宇応永盛重子>、盛昌<光明御宇貞和盛綱ノ子>、盛次<御光厳御宇延文盛昌ノ子>、盛実<後小松御宇嘉慶盛次ノ子>、盛匡<称光御宇応永盛実子或盛進モリスミトアリ>、信光<後光厳御宇延文国光ノ子左ノ一門>、貞盛<同上或北朝ノ貞治三年或正平二十年二月日筑州冷泉貞盛ト銘ス>、国忠<時代系図未詳<sup>③</sup>>、家永<後花園御宇長録>、利延<崇徳御宇天治長承筑後国三池同人或後花園御宇嘉吉同名有リ>、宝寿<後二条御宇嘉元陸奥出羽ノ末流当国ノ住>、感広<諸書当ニ記ス平戸ノ住トス然ラバ肥前ナルベシ、左国房ノ一類ナラン>、長円<一条御宇永延源義経薄緑ノ太刀ヲ作ル豊後大和筑後皆同人>国永<鳥羽御宇保安伝来系図

未考>、実次<文徳御宇仁寿当国内山ニテ鬚切膝丸ヲ作ルト云満仲朝臣百四十年前ナリ>、

8引用元 『金剛兵衛系図』

9備考

014

1 所載箇所 筑前之二国志二（上巻38頁1行）

2 種別 工芸

3 作品名 唐織・釜

4 時代

5 人名

6 網文 『和漢三才図会』筑前国土産として、唐織・釜が挙げられる。『蒼霞草』19巻日本考に細絹花布とあり。

7 本文 筑前国土産唐織<自博多織<sup>②</sup>出之<sup>①</sup>>、練酒<博多所釀白酒也<sup>①</sup>>釜<遠賀郡芦屋里、所治出称蘆屋釜>、(中略)<[蒼霞草十九卷]日本考に、(中略)後博多日向豊前後和<sup>②</sup>(肥カ)前ノ諸島(中略)、産金銀琥珀水晶硫黄水銀銅錢白珠青玉蘇木胡椒細絹花布漆器扇刀劍鎧甲などもみえたり、(後略)>

8引用元 『和漢三才図会』80巻・『蒼霞草』19巻日本考

9備考

015

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻39頁2行）

2 種別 工芸

3 作品名 八尺瓊・白銅鏡・十握劍

4 時代 仲哀天皇8年

5 人名 伊観県主祖五十迹手

6 網文 伊観の県主の祖五十迹手、仲哀天皇行幸に際し、船の舳艫に五百枝の賢木を立て、上に八尺瓊、中に白銅鏡、下に十握の劍を掛ける。

7 本文 [仲哀天皇紀]に八年正月幸筑紫時筑紫ノ伊観ノ県主ノ祖五十迹手聞天皇之行<sup>①</sup>拔<sup>②</sup>取五百枝ノ賢木立于船之舳艫上枝掛八尺瓊中枝掛白銅鏡下枝掛十握劍參<sup>①</sup>迎于穴門ノ引島而獻之、(中略)

[風土記]に怡土郡昔者穴戸ノ豊浦ノ宮ニ御宇足仲彦天皇將討球磨嶺於幸筑紫之時怡土県主ノ祖五十跡手聞天皇ノ幸拔<sup>②</sup>取五百枝ノ賢木立于船舳艫上枝掛八尺瓊中枝掛白銅鏡下枝掛十握劍參<sup>①</sup>迎穴門ノ引島獻之

8引用元 『仲哀天皇紀』・『風土記』

9備考

016

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻40頁2行）
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 怡土城
- 4 時代 神護景雲2年（西暦768年）
- 5 人名
- 6 網文 怡土城、天平勝宝8年（756年）に築き始め、この年成る。
- 7 本文 [続記十九卷] に天平勝宝八年六月甲辰始築怡土城、[廿九卷] に神護景雲二年二月癸卯筑前国怡土城成、<sup>②</sup><sup>①</sup>
- 8 引用元 『続日本記』19巻・29巻
- 9備考

017

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻48頁11行）
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 神殿・末社・鳥居
- 4 時代 元禄3年（西暦1690年）
- 5 人名 黒田光之
- 6 網文 筑前国怡土郡志登神社に、黒田光之、神殿及び末社鳥居等を建つ。
- 7 本文 元禄三年国主光之朝臣之時神殿及末社鳥居等有造営<sup>②</sup><sup>①</sup>
- 8 引用元 『社記略』
- 9備考

018

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻49頁5行）
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 石鳥居
- 4 時代 宝永4年（西暦1707年）
- 5 人名 松平綱政
- 6 網文 筑前国怡土郡志登神社に、松平綱政、石鳥居を建つ。
- 7 本文 志登社神殿は五尺間三間四方許なり小板葺なり中殿入一間拝殿入三間横二間瓦葺なり申西に向へり末社五字観音堂一字あり石ノ鳥居あり銘に宝永四歳次丁亥夏五月三日建立従四位下侍従本州牧松平肥前守綱政とあり、

8引用元 [松本久蔭云]

9備考

019

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻49頁14行）

2 種別 建造物

3 作品名 高祖神社社殿

4 時代 永正4年（西暦1507年）

5 人名 大工藤原公吉・松林藤原正安・引頭藤原重徳

6 網文 筑前国怡土郡高祖神社に、大檀那原田興種、社殿を建つ、大工藤原公吉、引頭小工30人。天文10（1541）年、願主原田隆種再興。元龜3（1572）年、願主原田親種再興、大工松林藤原正安、小工28人、引頭藤原重徳。

7 本文 奉造<sup>③</sup>立大日本国筑前国怡土庄鎮守高祖山大菩薩御社<sup>①</sup>右志趣者<sup>③</sup>為天長地久御願門満国土安穩殊者信心大檀那原田彈正少弼大藏朝臣興種家門繁昌武運增長息災延命諸願成就皆令満足也永正□（四）年丁卯七月十日敬白大工藤原公吉引頭小工三十人奉再興大日本国鎮西筑前州怡土ノ郡一宮詫祖大菩薩宝殿一字云々願主宮長從五位下原田大藏朝臣彈正少弼隆種云々天文十辛丑年云々、奉再興大日本国鎮西筑前州怡土郡一宮詫祖大菩薩宝殿一字云々奉行宮別当上原和泉守種豊大工松林藤原正安小工廿八人引頭藤原重徳元龜三年壬申十二月十八日官司權大僧都法印永円敬□殊者願主宮長從五位下原田彈正大弼大藏朝臣親種武運長久云々、

8引用元 [高祖神社棟札]

9備考

020

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻50頁18行）

2 種別 建造物

3 作品名 高祖神社社殿

4 時代 天正7年（西暦1579年）

5 人名 原田隆種

6 網文 筑前国怡土郡高祖神社に、原田隆種、社を建立す。

7 本文 怡土郡高祖大明神ハ当郡之宗廟也、(中略) 及末世滅滅矣天正七年原田隆種建<sup>②</sup>立<sup>①</sup>社云々、

8引用元 『筑陽記』 8巻

9備考

## 021

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻50頁12行）  
 2 種別 建造物  
 3 作品名 高祖神社社殿  
 4 時代 寛文2年（西暦1662年）  
 5 人名 黒田光之  
 6 網文 筑前国怡土郡高祖神社宮殿を、黒田光之、修補す。  
 7 本文 高祖神社云云至寛文二年国主光之朝臣修補宮殿給、  
 8 引用元 『社記略』  
 9 備考

## 022

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻51頁11行）  
 2 種別 建造物  
 3 作品名 権現堂、拝殿、鐘楼、経蔵  
 4 時代 乾元2年（西暦1303年）  
 5 人名  
 6 網文 浄蓮・増慶、筑前国怡土郡雷神社権現堂、拝殿、鐘楼、経蔵焼失のことを注進す。  
 7 本文 注進雷山権現堂以下焼失ノ事一権現堂七間<六尺間、東向奥三間正安三年六月二十日ノ夜子ノ刻云云>一拝殿十二間<八尺間西向奥三間同前>一鐘楼<前三間、正面五尺間、脇間四尺宛、奥二間五尺宛自権現堂南東向同前>一経蔵<前三間六尺間奥二間六尺間>、自権現堂北<東向同前>右就御教書令実檢焼所之处衆徒所進注文無相違仍注進如件乾元二年九月十三日浄蓮判増慶判  
 8 引用元 『文書』  
 9 備考

## 023

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻52頁8行）  
 2 種別 書跡  
 3 作品名 雷山古文書  
 4 時代  
 5 人名  
 6 網文 雷山中之坊金剛清浄院に雷山古証文二巻六十五通あり。  
 7 本文 雷山古証文二巻六十五通は中之坊金剛清浄院にあり、なほその外にもありといふ

8引用元 『文書』  
9備考 雷山千如寺所蔵大悲王院文書中に現存。

024

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻52頁9行）  
2 種別 工芸  
3 作品名 太刀  
4 時代 天文5年（西暦1536年）  
5 人名  
6 網文 左京大夫従四位下兼行・多々良義隆、筑前国怡土郡雷山雷神社に太刀1腰、神馬1疋を寄進す。  
7 本文 奉寄進雷山雷神御宝前御太刀一腰<国宗>神馬一疋<印三葉柏>右所奉寄進之状如件天文五年七月廿三日左京大夫従四位下兼行周防介多々良朝臣義隆敬白、  
8引用元 『文書』  
9備考

025

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻52頁13行）  
2 種別 彫刻  
3 作品名 面  
4 時代  
5 人名  
6 網文 筑前国怡土国雷山に神功皇后奉納の面あり。  
7 本文 [筑陽記八巻] に怡土郡雷村雷山ハ高山也本名ハ層増岐山、雷電神鎮坐故号雷山也  
有上宮中宮下宮山嶺今謂層増岐岳云云、神功皇后征伐異国之時一七日参籠当山ノ  
神社奏神樂其時仮面三今猶存在早魃之時出之必大雨云、(中略)  
[搭志隨筆] に雷山に神功皇后奉納の面あり太守惣衛公ある時登山して云云強て  
是を出さしむ蓋をひらけば忽飛去る俄に雲暗く大風大雷山も崩るゝが如し太守ハ  
はだしにて麓ににげ下給ふ此時に山汐出て田地多く損じたり雷神社の向ひなる数  
仞の岩角に此面かみつきてあり今にいたるまで人其下にいたれば即雨ふる、雷社  
の祭礼は十月廿一日なり其夜社に灯をともすにこゝに十あれば面が岳にも十の火  
みゆ廿あれば廿の火みゆ其事年々にかはることなければ人あやしむ事なし  
8引用元 『筑陽記』 8巻・『搭志隨筆』  
9備考

026

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻54頁15行）  
2 種別 建造物  
3 作品名 石祠三字  
4 時代 宝暦3年（西暦1753年）  
5 人名  
6 網文 筑前国怡土郡雷山上宮曾祖神社の石祠三字の廻りに石玉垣あり。  
7 本文 <雷山上宮瓊瓊杵尊を祭る、石祠三字その内に中ノーツは四尺四方許ニツは三尺四方許にして廻りに石玉垣あり宝暦三年三月再興と記せり此二字は天神地神を祭る、(後略) >  
8 引用元 [松本久蔭云]  
9 備考

027

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻54頁15行）  
2 種別 建造物  
3 作品名 竜王塔  
4 時代  
5 人名  
6 網文 筑前国怡土郡雷山面嶽頂に竜王塔あり。  
7 本文 <雷山上宮瓊瓊杵尊を祭る、石祠三字その内に中ノーツは四尺四方許ニツは三尺四方許にして廻りに石玉垣あり宝暦三年三月再興と記せり此二字は天神地神を祭る。山上を面嶽と云神宮皇后の石祠あり同所に金毘羅ノ石祠あり絶頂に竜王塔ありみつのみなり天ノ宮と云伝へたりと云り、(後略)  
8 引用元 [松本久蔭云]  
9 備考

028

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻55頁8行）  
2 種別 工芸  
3 作品名 三種ノ神器のうつし  
4 時代  
5 人名  
6 網文 筑前国怡土郡雷山下宮笠折大権現より中宮に至る道に、上古に三種ノ神器のうつしを納めたと伝える神護石あり。

7本文 <雷山ノ下宮神殿に畳十枚をしくべし其内に神殿あり拝殿は入二間半横二間あり  
神殿ノ右人ノ左に風穴あり風神二座を祭る、毎年八月に六十歳已下の男茅を以て  
穴上を掩ふ事なり前ノ年に掩ひたるを除けずして其上におくなり、下宮より中宮  
に登る道三町許なり、其間に右ノ方五六間許山ノ側に大なる石ありて是を神護石  
と云俗に是を香合石と云ニツ合せたるが如くなればなり、是上古に三種ノ神器の  
うつしを納めたる処なりといひ伝へたり、>

8引用元 [松本久隆云]

9備考

029

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻56頁13行）

2 種別 書跡

3 作品名 宇美八幡宮縁起

4 時代 仁寿2年（西暦852年）

5 人名 筑前国怡土国長野宇美八幡宮

6 綱文 筑前国怡土郡長野宇美八幡宮に縁起あり。

7本文 <夫当宮開闢者往昔人皇十五代氣長足姫尊征服三韓帰朝之時、皇后船上老翁化現  
時皇后向老翁曰汝誰耶翁曰吾是新羅国之神号清滝権現垂<sup>②</sup>迹於日域鎮護於国土<sup>①</sup>  
已テ不見爾後皇后還<sup>②</sup>帰筑紫令武内宿弥所置香椎仲哀天皇之御棺斂于当山且詔築  
陵所謂皇后即位之年移先帝御棺乃築陵者是也、又命武内宿弥祭彼船中所現清滝権  
現於雷山<sup>①</sup>是以此山仲哀天皇之山陵亦是清滝権現最初鎮座之勝地、(中略) 仁寿壬  
申年二月日とあり、仁寿ノ年号はいかゞなれどもむげに近キ比に造れる物とも聞  
えざれば暫くひきいでつ>

8引用元 『長野の宇美八幡宮縁起』

9備考

030

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻57頁8行）

2 種別 書跡

3 作品名 八幡愚童訓

4 時代 天正14年（西暦1586年）

5 人名 水崎加賀入道沙弥一仙

6 綱文 水崎加賀入道沙弥一仙、筑前国怡土国長野庄八幡大菩薩宝前に、神宮寺蔵本八幡  
愚童訓を寄進す。

7本文 <〔神宮寺蔵本八幡愚童訓上巻〕ノ末に奉寄進筑前国怡土郡長野庄八幡大菩薩御



宝前天正十四年丙戌五月廿二日水崎加賀入道沙弥一仙とあり、>

8引用元 神宮寺蔵本『八幡愚童訓』上巻

9備考

031

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻59頁8行）

2 種別 工芸

3 作品名 □三尺ノ金壺・五寸釘

4 時代

5 人名 聖賀上人

6 網文 聖賀上人、筑前国怡土郡雷山千如寺大講堂建立にあたり、曳地時に「千如寺」銘のある□三尺の金壺と五寸釘を見出す。

7 本文 依神功皇后三韓征伐之御願課法持聖賀構<sup>①</sup>-造当院日靈鷲寺、当曳地之時有□三尺ノ<sup>②</sup>金壺<sup>①</sup>其銘文曰千如寺此故改寺号为千如寺又掘<sup>②</sup>出五尺ノ釘云云 如初還埋則当寺ノ<sup>①</sup>壇場也、千如寺ノ号ハ限当寺ノ大講堂、<sup>②</sup>

8引用元 『縁起略』

9備考

032

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻59頁13行）

2 種別 彫刻

3 作品名 多聞天像・持国天像・二十八部衆像・千手観音像

4 時代

5 人名 清賀上人

6 網文 筑前国怡土郡雷山千如寺観音堂に古仏の多聞天・持国天・二十八部衆、清賀上人作の千手立像一丈六尺像あり。

7 本文 観音堂八間四面在中宮地<sup>②</sup>多聞持国ノ二像及二十八部衆皆古仏也千手立像長一丈六尺清賀上人之作也、<sup>①</sup>

8引用元 『筑陽記』

9備考 雷山千如寺に現存。うち多聞天像に正応2年（1289）の胎内銘あり。

033

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻60頁1行）

2 種別 工芸・書跡

3 作品名 錫杖・紺紙金泥縁起

- 4時代
- 5人名 聖賀上人・醍醐天皇
- 6網文 筑前国怡土郡雷山千如寺に聖賀上人伝来の錫杖・醍醐天皇宸筆の紺紙金泥縁起あり。
- 7本文 < [松本久蔭云]、雷山に聖賀上人伝来の錫杖ありまた延喜天皇ノ宸筆の由にて紺紙金泥の縁起あり（後略）
- 8引用元 [松本久蔭云]
- 9備考 雷山千如寺に、紺紙金泥縁起（時代不祥）現存。

034

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻61頁5行）
- 2 種別 工芸
- 3 作品名 釜
- 4 時代 雷山坊中さかんなりし時
- 5 人名
- 6 網文 筑前国怡土郡雷山観音堂に大釜あり。
- 7 本文 <（前略）又雷山の観音堂に大なる釜ありそのわたり四尺六寸許あり是雷山坊中さかんなりし時食物を煮調たる釜なりと云伝へたり>、
- 8 引用元 『天文六年古文書』
- 9 備考

035

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻62頁5行）
- 2 種別 彫刻
- 3 作品名 古刹の本尊
- 4 時代
- 5 人名 清賀上人
- 6 網文 筑前国怡土郡大門村染井の靈鷲寺跡薬師堂正厳寺、観音堂聖宝寺、釈迦堂蓮花寺に古刹の本尊を祀る。
- 7 本文 怡土郡大門村ノ染井ハ云云聖武天皇詔<sup>チカ</sup>天竺靈鷲山之僧清賀上人<sup>①②</sup>創寺院四十二区号靈鷲寺神仏共昌云然而自永正覃天正九州争乱罹兵火寺社悉炎滅供田ハ豊臣秀吉没<sup>①②</sup>収之也、依之名蹟礎已偶存雖有寺社如無、天神ノ社二所弁財天ノ社薬師堂号正厳寺古刹之本尊也清賀上人作也、（中略）観音堂号聖宝寺古刹之本尊也、釈迦堂号蓮花寺古刹之本尊也、各古靈鷲寺之末寺也とあり、<sup>①②</sup>
- 8 引用元 『筑陽記』 8 卷

9備考

036

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻62頁13行）
- 2種別 建造物
- 3作品名 染井宮石祠
- 4時代 宝暦4年（西暦1754年）
- 5人名
- 6網文 筑前国怡土郡染井山靈鷲寺に、染井宮石祠あり。
- 7本文 < [松本久蔭云]、染井は四方井にしてめぐりに石ノ玉垣あり前に石ノ鳥居あり染井宮石祠四尺四方許なり廻りに石ノ玉垣あり宝暦四年に怡土志摩両郡より建たり拝殿二間四方にしてかやぶきなり（後略）
- 8引用元 [松本久蔭云]
- 9備考

037

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻63頁6行）
- 2種別 彫刻
- 3作品名 仏
- 4時代
- 5人名 清賀
- 6網文 筑前国怡土郡一貴山夷魏寺跡草堂に、仏、安置される。
- 7本文 怡土郡七大寺云云一貴山夷魏寺とあり、一貴山村にあり、本尊は阿弥陀仏、社僧十二坊皆炎上して今はなし、(中略) 此寺も聖武天皇勅に因て僧清賀造れりと云今草堂一字有て仏を安置するのみなり、村は高き処にあり、
- 8引用元 『旧記』
- 9備考

038

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻63頁6行）
- 2種別 彫刻
- 3作品名 仁王像
- 4時代
- 5人名
- 6網文 筑前国怡土郡一貴山夷魏寺仁王門に、仁王像、安置される。

- 7本文 怡土郡七大寺云云一貴山夷魏寺とあり、(中略) <仁王門聊残りて二王ノ像あり甚奇巧なる物なり>
- 8引用元 『旧記』
- 9備考 一貴山地区の仁王門に現存。うち阿形像に宝永6年(1709)建立の胎内銘あり。

### 039

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡(上巻64頁10行)
- 2 種別 彫刻
- 3 作品名 古仏
- 4 時代
- 5 人名 筑前国怡土郡小倉村小蔵寺鎮守社下観音堂
- 6 網文 筑前国怡土郡小倉村小蔵寺鎮守社下の観音堂に、古仏、安置される。
- 7 本文 さて怡土郡小倉山小蔵寺は小倉村にあり、小倉寺の鎮守の社といふは(中略)熊野三所権現、相殿は竜樹菩薩なり、十一月十八日祭礼を行ふ、(中略)社ノ下に観音堂あり古仏を安置せり、是も怡土郡七大寺の内にして古は僧坊も多かりしと云、<今は小社と観音堂のみ残れり>、

8引用元

9備考

### 040

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡(上巻65頁1行)
- 2 種別 彫刻
- 3 作品名 観音小像・観音像
- 4 時代
- 5 人名 筑前国怡土郡上原村金剛寺跡草庵
- 6 網文 筑前国怡土郡上原村金剛寺跡草庵に、観音の小像、安置され、旧本尊の観音像、残る。
- 7 本文 鉢伏山金剛寺ハ怡土郡七大寺之一也とあり、金剛寺ノ跡は怡土郡上原村ノ上にあり(中略)坊中ノ跡甚広し<今は竹林と成れり>今草庵一字残りて観音の小像を安置す昔ノ本尊とある観音ノ像も聊朽残れり、

8引用元 『旧記』

9備考

### 041

- 1 所載箇所 筑前之三怡土郡(上巻66頁9行)

2種別 建造物  
 3作品名 天下天神社本殿  
 4時代 天文15年（西暦1546年）  
 5人名 原田隆種  
 6網文 原田隆種、筑前国怡土郡世戸村天下天神本殿を建つ。  
 7本文 筑前国怡土郡世戸村天下天神御宝殿一字大蔵朝臣原田弾正少弼隆種殊造立旦那安曇朝臣西長門守豊国<年号不詳>丙午卯月吉日とあり、是は天文十五年ノ棟札なり、  
 8引用元 [棟札]  
 9備考

#### 042

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻67頁5行）  
 2種別 絵画・書跡  
 3作品名 十六善神画像并大般若経  
 4時代 文明13年（西暦1481年）  
 5人名 筑前国怡土郡医王山社  
 6網文 筑前国怡土郡医王山御宝殿に、原田次郎太郎、十六善神画像并大般若経を施入す。  
 7本文 怡土郡井原村祠所納 [十六善神ノ画像并大般若経篋題書] に奉施入医王山御宝殿文明十三<辛丑>二月吉日次郎太郎敬白とあり<原田次郎太郎中務太輔泰種ノ事なり、>此社ノ事いまだ考へず、<医王とあるは薬師又は大汝ノ神などを祭れるにや、>  
 8引用元 [松本久蔭云]  
 9備考

#### 043

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻69頁3行）  
 2種別 彫刻  
 3作品名 地藏菩薩  
 4時代 弘法大師  
 5人名  
 6網文 筑前国怡土郡篠原村延命寺に、本尊として、弘法大師作地藏菩薩、安置される。  
 7本文 延命寺ハ在怡土郡篠原村、(中略) 当郡染井山之末院而真言秘密道場也弘法大師帰朝之時所造之地蔵菩薩安置之為本尊とあり、<其趣古文書に見えたり、>此寺廢れて今は伝はらず、

8引用元 『寺記略』

9備考

044

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻69頁5行）

2 種別 彫刻

3 作品名 等身正観音

4 時代

5 人名 仏師春日

6 網文 筑前国怡土郡篠原村清浄寺に、本尊として、仏師春日作地等身正観音、安置される。

7 本文 <又此村（篠原村）に清浄寺と云寺有りしと云、其本尊は等身ノ正観音にて仏師春日の作なりと云、延久年中に当国司藤原俊雅建立せし寺なりと云初は早良郡東門寺の末山にして天台宗なりしを正安年中済家の禪宗と成れりと云、寺趾詳ならず、>

8引用元 『寺記略』

9備考

045

1 所載箇所 筑前之三怡土郡（上巻70頁8行）

2 種別 工芸・絵画

3 作品名 位牌・古涅槃像

4 時代

5 人名

6 網文 筑前国怡土郡高祖村金竜寺に、原田弘種以後代々の石塔位牌・開山以来数代の住僧の位牌・古涅槃像などあり。

7 本文 原田弘種己後代々之石塔位牌及開山以来数代住僧之位牌并古涅槃像等於今有之、

8引用元 『寺記略』

9備考

（おがた ともみ：アジア文化学科 講師）

（いがた すすむ：九州歴史資料館 学芸員・技術主査）